

有識者の意見



アマタ株式会社
シニアコンサルタント
いのまた よういち
猪又 陽一氏

昨年の有識者の意見では、①グローバル化に伴う国際スタンダードへの対応、②CSR課題に対する重要度(マテリアリティ)の設定、③環境制約下における「本業で取り組むCSR」であるCSV (Creating Shared Value)の事業化を提言させて頂きました。

昨年の総括を踏まえて、今年のCSR報告書を読み終えた第一印象は、国際スタンダードへの対応で大きな飛躍が見られた点です。特にISO26000、SDGsを意識した報告書作りがされているのは大変素晴らしいことです。トップメッセージの中でも国際社会の一員としての責任が触れられていますし、各ページの上部には、ISO26000における「7つの中核主題」とSDGsにおける「17の目標」がしっかりと対応付けされています。読者からも貴社が国際社会に貢献していることを理解できたのではないかと思います。

次に印象に残ったのは、報告書全体における社員の登場回数が昨年よりも多くなっている点です。特集ページでは、営業や技術の担当社員が自動車や建物などで使用されている貴社の製品について解説したり、役員がステークホルダー別に総括していたり、2017年の新入社員が紹介されたりと、最終的に最も大事にしているステークホルダーは社員であることが十分に伝わってきました。特に、昨年は国内でも企業における過剰な残業が問題になり、社員の働き方に注目が集まった年でした。今後は、社員の労働環境の整備に加えてダイバーシティや

LGBTへの対応など、持続可能な企業を目指すための組織力強化が必要になってきます。やはり社員がいきいきと働いている企業には優秀な人材が集まってきますし、今回の報告書が会社の姿勢を伝えるにはとても良い機会であったと思います。

今見てきたように、今年は国際スタンダードへの対応を意識した報告書になりましたが、今後、更に貴社らしさを伝えるために、来年に向けて2点提言させて頂きたいと思います。1点目は昨年にも指摘しましたが、「中期経営計画とCSRの取り組みの一体化」です。来年度は中期経営計画の最後の年度でもあり、SDGsを更に事業へと昇華させるためにもCSRをいかに経営に融合させていくのが重要になってきます。貴社がCSR課題の中で何にプライオリティを置いているのかを表明すべきだと思います。そして、中期経営計画の中でCSRにおける明確な指標を盛り込むことも検討すべきです。更に、国際社会へ貢献するために、国連グローバルコンパクトなどの国際イニシアティブへの参加など、積極的に取り組むべきでしょう。

2点目は、サプライチェーン上でのCSR課題に対する取り組みです。今年は、ISO20400(持続可能な調達に関する手引)が発行されたり、また、2020年は東京オリンピックが開催されることもあり、ロンドンオリンピックで実施された「サステナブルな調達」が継続され、企業には調達面におけるCSR課題の解決が求められてきています。仮に、貴社の原材料が今後使用できなくなった場合に、事業は持続的に続けられるのでしょうか?特に海外では、国内ではあまり見られない児童就労のような人権問題などが多く起きています。今後、貴社のビジネスがグローバル化するほど、社会からの期待が高まりますし、様々なリスクが起こる可能性が出てきます。改めて、サプライチェーン上でのCSR課題のリスクを洗い出して、必要であれば早急に対処すべきだと思います。今後、更なるCSRへの取り組みを期待しております。

有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社 代表取締役 社長執行役員 **常盤 和明**

2017年版のCSR報告書の特集では、当社の技術がどのような形で皆様の生活の中で活かされているのかを社員の声と共にご紹介しました。社員がそれぞれの持ち場で役割を果たし、チームワークによって世に送られたリケンテクノスグループの技術は、色々な場所で活かされているをご理解いただけたら幸いです。

また、猪又様のご指摘を真摯に受け止め、経営課題とCSRへの取

り組みとの一体化について、よりわかりやすくご報告できるよう努めてまいります。特に原料調達については、メーカーである当社にとっては生命線ともいえます。持続可能な社会を目指す上で、リケンテクノスグループにとって原料調達に関する課題は、さらに重要性を増してきます。このような課題も含め、これからもステークホルダーの皆様と共に課題解決に努めてまいります。

編集後記

3か年中期経営計画の経営方針の中に、「すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して」という言葉があります。リケンテクノスグループはこの実現に向け日々努力しております。この進捗が伝わりやすいよう本報告書では、写真や簡潔な文章を多く用いております。

本報告書を通じてリケンテクノスグループの取り組みをご理解いただくとともに、本報告書への率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告書取扱部署代表者
取締役 上席執行役員 経営企画本部長 : 梶山 学之
編集メンバー
品質保証本部 マネジメントシステム部 : 井上 宏一、栗原 仁
経営企画部 企業ブランディンググループ : 吉岡 さやか、宮村 かおり





リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger
that harnesses the power of science
to improve the quality of life
and create a safe, affluent society.
We continuously provide new value and satisfaction
to people, companies and society
through our original and superior formulations
and manufacturing technologies of multiple resins.



お問い合わせ先

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

リケンテクノス株式会社 経営企画部

〒101-8336

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地 ワテラストワー

TEL:03-5297-1631 FAX:03-5297-1660

ホームページ

<http://www.rikentechnos.co.jp>

2017年9月発行

